



日新記聞 第三號

明治壬申五月



西垣文庫 特
文庫 10
7358
3



特 文庫10
7358
3

緒言

今也天下ノ文物日新ニシテ古來未曾有、奎運ニ値レリ而シテ我々神州ノ人ハ因襲ヲ墨守シテ方今ノ隆盛ヲ知サル天稟ノ愚ニ非ズ聞見ノ發達ナル故也斯ル昭代ニ生レテ世故變換中外ノ情態ヲモ知サル豈悲シキコトニ非マヤ因テ同志ノ者相謀リ共ニ饒財シテ日新報社ヲ結ヒ官許ヲ受ケ縣廳ノ布告東西京坂府横濱神戸等、新聞外國ノ異聞里巷ノ瑣事ニ至マニ都テ聞智ノ一助ニナルモノ聞見ニ隨ヒ刊行シ普ク國內ニ公布ス看官願クハ我社中ノ徵凡ヲ察シ彼ヲ見テ我ヲ知り事ニ觸レテ回想シ旧染ノ固滯ヲ一掃シテ開化ノ域ニ躡歩シ智識ヲ擴充シテ昭代ノ民タルヲ負サランコト是我輩ノ企望スル所ナリ

西曆一千九百零五年

新記聞第三號 明治五年壬申五月



○ 皇后宮來ル十七日朝第六字御出門相州官ノ下温泉場江

行啓同野ニ於テ暫ク御滞留被仰出候事

但シ御道筋東海道小田原驛ヨリ官ノ下江被爲

成候事

壬申六月五日 大政官

○ 今般教導職ヲ置カレ等級左之通定メラレタリ最モ教部省管轄ナル由

日新記聞 第三號

大教正一級	權大教正二級
中教正三級	權中教正四級
少教正五級	權少教正六級
大講義七級	權大講義八級
中講義九級	權中講義十級
少講義十一級	權少講義十二級
訓導十三級	權訓導十四級

大教正以下俸給ナシ一級ハ官等二等ニ準ス以下倣之

○ 教部省ヨリ權少教正ハ左之三條布達ナリタリ

一 敬神愛國ノ上旨ヲ体スベキ一 一天理人道ヲ明ニスベキ一 一皇上下ヲ奉體シ朝旨ヲ遵守セシムベキ一

兼補權少教正 神宮祭主近衛忠房

全 出雲大宮司千家尊福

補權少教正 前大僧正 本願寺光尊 東本願寺光勝

○ 新聞誌ニ前項ヨリ教部省エ眞宗ノ僧徒十人社人名出仕ヲ命セラレ此節教法講究最中ナリト云最僧徒社人共從前ノ服ヲ脱シ新製ノ洋服ヲ着用セルヨシ又僧侶ニ肉食妻帯蓄髮等可爲勝手旨四月廿五日御布令アリタリ閑散ノ僧侶モ國家ノ治具ニ充タセラレル御

趣意イヨミ、天下ニ長物ハナキ、ニナリマベシ、聖世
無弃材ト豈信ナラスヤ

○第一號二十津川ノ逐日開化ニ駭歩セシ、ヲ載タリ
シガ加之生産ノ道モ隨テ開ケ諸曠野ノ桑茶折立村ノ
養蚕橙原村ノ鑛山追々其効ヲ奏シ日月ニ盛ニナルヨ
シ中ニモソノ效ノ速ナルハ昨年ヨリ内野村ノ曠野字
高平ト云、灰ニ周圍三十町斗リノ牧牛場ヲ試ニ開キ、夕
リシニ早春ヨリ親牛牝牡都合六十余頭放牧セシガ中
ニハ孕牛モアリ、レト見ユテ此節二十余頭乳生セリト
云、四五年ヲ經ハ數百頭ニ至ルベシ、又吉野郡十二村郷

坂本村ヨリ風谷村マテ十里ノ川筋通船ヲ始メタリ、諸
荷物運輸大自在ニテ、商客大ニ便リヲ得テ、近傍ノ地之
ガ爲ニ商店ヲ開キ、活業ヲ盛ニセリト云、此川本險難、謂
方ナシ、筏スラ餘程操縦ニ慣レタルモノニ非ニ、ハ通ヒ
難キニ人功ヲ以、總ノ間ニ此ニ至ル、其財力ヲ費セシ
ト想像セラレタリ、猶風谷村ヨリ小原マテ凡六里程、ア
ルヲシ、バラク財力ヲ養フテ、切ヲ取ントスルヨシ、此事
成就セハ、地方巨利勝テ云可ラス、ソノ士人ノ勉勵實ニ
感賞スベキナリ、此項東京眞事誌ヲ閱スルニ、彼ノ地ノ
事ヲ載セテ、深ク賞賛セルモ、虚獎ニ非ルナリ、儉シ航ク

開化ニ向ヒ生産ノ繁盛スルモ由テ來ル所アリ畢竟其
 管轄ノ司牧スル人ノ鼓舞振作スルニヨルモノニテ彼
 地モ一旦方向ヲ誤リシモ五條縣ノ管轄ニナリシコノ
 カタ漸開化ニ赴キ加之津枝少參事土地ノ境確ヲ察シ
 テ生産ノ道ニ注意周旋セラレ前ノ數功ヲ成シ得タル
 モ多ク此人ノ造意ナリシト云フナリ土人能ク協和戮
 カ致々トシテ弛マズハ其利益ヲ興スル豈此ニ止ラン
 ヤ

○京都新聞ニ京都府權大屬明石氏城州相樂郡ニ於テ
 一ノ炭酸水ヲ檢出セリ從來此泉ノアルヲ知リタル

人モアリシカドモ何ノ水ト云フヲ知ラスカ、ル藥水
 タルノ世ニアラハル、ハ今日ヨリ始リケル其言上
 書左ニ

炭酸水

酸井酸泉 歐羅巴通名セルチ元水

右ハ管内山城相樂郡上有市村屬本津川ノ畔字箱竈ト
 稱候場所巖間ニ一渠有之爰ニ湧出ス冷泉ニシテ嘗レ
 ハ耳酸ニシテ鹹ク口舌ニ竈透シ清爽ヲ覺フ化學試驗
 ヲ經ルニ炭酸氣ヲ飽和シテ些少ノ曹達塩鐵分ヲ含ム
 飲料藥用ニ供シテ更ニ有害ノ成分無之其性最モ良善
 ト存候依テ繁口鑛ニ充塞シ賣取候へバ一產物ト存候

此段言上候事

炭酸泉所ハ上有市村ヨリ三町笠置ヨリ羊里童仙

房出張巫ヨリ一里計行程ニ候

壬申三月四日

明石權大属

又炭酸泉ノ功能ヲ西書中ヨリ抄譯スルニ

炭酸泉效能抄譯

此藥水ハ氣味微酸ニシテ適度ニ刺衝シ胃弱ノ人常ニ
飲料トシ用ヒテ消食機ノ運用ヲ起シ渴ヲ止メ清涼ノ
如ク養シ胃中粘液膜ノ分泌ヲ扶ケテ活潑ナラシム
凡テ胃ノ病患ニ用テ鎮静ノ效ヲ見ハシ惡心嘔吐ヲ鎮

止シ又水脈ニ走テ小便分泌ノ運用ヲ促進シ且伊屈篤

儂麻質私等ノ如キ慢性病ニ效アリ多量ニ之ヲ用ユレ

ハ精神ヲ爽快ナラシメ甚シキハ酩酊狀ヲ見ハスニ至

ルヲアリ斯ク靈妙ナル良藥タルヲ以テ京都府ヨリ東

京ハ御届アリケレハ太政府ヨリ 御沙汰アリ即チ

此水ヲ鑿ニ入レテ御納ニナリ又大藏省並ニ澳國博覽

會事務局ハモ御送ニナリケル由此水追々外國ニモ聞

ハ輸出ノ品トナルナラハ一泉ノ國益モ亦數千萬金ニ

至ルベシ嗚乎天地ノ間造化ノ無盡藏ニハイカナル物

モアラサルナシ唯人ノ求メサルノモ

○此項法隆寺ボウデン山ニ於テ石炭脈ヲ檢出セシモノアリソノアタリヲ鑿チシトコロ巨大ノ腐木ノ如キモノヲ得タリ試ニ之ヲ劈スルニ半ハ石炭半ハ腐木全體ヲ視ルニ隱然ト木理ヲ存シタル處アリ色ハ黒ケレド樟ノ石ニ化シタルモト髣髴タルモノナリ曰テ憶起ス嘗テ聞ク西洋人ノ説ニ石炭ハ前々世界ノ木ノ化シタルモノト云ヒシヨシ前々世界ノ説荒唐ニ似テ我輩ノ知ル所ニ非レ凡桑滄ノ變ハ固ヨリ無キヲ得サレバ木ノ土中ニ化シタルハナキニシモアラサルカ況ヤ現在ソノ痕ヲ存シタル處有ルニ於テヤ先ソレハ

扱ヲキ窮ニ憂フル所アリ當國ハ薪ニ乏カラ又國ニヘ石炭杯ハ誰モ着意スル者ナケレ凡近來ノ如ク製茶ノ業ガ年々盛ニナリテハ行々薪ノ益ニ乏耗スルハ目前ノ事ナリシカラバ石炭ノ檢尋モ已ムヲ得サルトニ至ルベシ先見ノ人速ニ之カ候ヲ爲サントテ乞ノ之
○此項仄ニ聞ク縣廳ニ於テ異宗ノ徒ヲシテ新道ヲ開カシムト云樽アリ又徒刑人ヲ以テ鑛山ヲ稼カシムト云トモアリ頃新聞誌ヲ見ルニ埼玉縣下近頃徒刑場ニ入置シ者懲役ノ爲近傍ノ諸村農業ノ手傳ニ遣ハストニナレリ雇錢モ他ニ比スレハ最賤シテ耕耘ノハカ取

モ從前ニ倍セリ追々傳聞シテ諸村ヨリ官ニ請フ者少
カラスト云其用ユル夾小異同アレドソノ御趣意ハ何
レ懲毖ノ二字ニ出デス善巧方便ト云ベシ有司ノ用意
千里符節ヲ合セタル如シ亦奇ナラスヤ

○此節村々ヨリ追々小學校取建ヲ願出ルヨシ官ニ於
テ其指揮運爲ノ宜ヲ得ハ追々盛ニナルベシ秀才特達
ノ者モ隨テ出スベシ但始アツテ能終アルモノ鮮シ有
司ヨクソノ盛衰ヲ未萌ニ察シ嬾惰ヲ破シ委靡ヲ起シ
人々ヲシテ奮發自ラ己ムヲ得サラレメバ庶幾クハヨ
クソノ終始ヲ保ツテ國家右文ノ盛旨ニ負カザラニカ

○奈良嫩草山へ本縣ヨリ牧牛場ヲ開カレ麓ノ繞リ林
五六町ノ柵ヲ結ヒ功峻ルノ上ハ多少ノ牛羊ヲ放牧セ
ラル、由往昔ハ三笠山此嫩草山ホ皆當地ノ勝地ニテ
古人ノ歌集ニモ散見シタル名高キ名勝ナリ殊ニ中古
ヨリ何人ノ傳會セシトニヤ神鹿ト唱へ許多ノ鹿ヲ山
市ニ布滿セシム嫩草山杯特ニソノ窟トナツテ春夏ノ
候草燃ニト欲スル青檀ノ上ニ星散碁處スイカニモ風
景ヲ裝點セリ詞客ハ却テヨキ景致ヲ添ヘタル思ヲナ
セシニ今也ソノ鹿ヲ驅逐テ牛羊ヲ放牧スト云ソノ光
景頓ニ改觀スベシ時態ノ變換殆ト此ニ極レルカ有

司ノコ、マテニ着眼セラル、國家遺算ナシト云ベシ
 ○大阪松嶋驅徴院檢査ノ法一層嚴ニセラレ其效驗追
 ヲ相見レ人心モ隨テ居合難有檢査ヲ受ルヤウニナリ
 シト云御趣意ノ貫徹スル日ヲ期シテ待ツバシカ
 シ一利アレハ一害アルモノニテ此頃坊間ニ往々陰陽
 物ヲ寫真ニテ鬻クモノアリ夫徴毒檢査ノ舉ハ實ニ人
 生ノ大害ヲ除ク爲メ已ムヲ得サルノ大權ヨリ出タル
 事ト知ナカラ公然ト跨リカヘツテ人ニ示スハ如何ニ
 モ耻ヘキト賤シキ賣婦スラ一旦ハ公命ヲ拒ミシ程
 ニ何人ノヒシ業ナルヤ聊ノ財ヲ利シテソノ耻ナキト

此極ニ至リサキニ賣婦ノ苦情ヲ抱キミヲ聞テ是レ人
 心ノ未メ全ク磨滅ヒサル所アリト頗ル人意ヲ慰セシ
 ニ思ヒ寄サル風儀ヲ敗ル所業ナリ思フニ是恐クハ上
 ノ御趣意ヲ取違セシモノ、セシ業ナルカ夫ノ檢査ノ
 法ヲ見テ斯ク公ノ上ニサヘ公然ト御改メアルカラハ
 サマテ秘スヘキモノニ非スト生合點ヨリ忽チ自暴自
 棄ノ弊ヲ生シテ風俗ノ頽敗如此ニ至ルト見ユ口惜キ
 事ニアラスヤ此頃本縣ヨリ總テ淫戲ニ涉ル畫圖土木
 偶ノルイ賣買禁止ノ御布令アリタリソノ風俗ヲ維持
 セラル、御趣意奉載セサル、ケニヤ

日新言聞

卷之三

八

○東京新聞紙ニ云越後新瀉表蜂起ノ土寇四月九日頃
 リ漸々鎮靜シ諸方ノ兵隊モ夫々歸營賊徒ノ内頭立
 タル者多人數捕縛ニ就キ頃日全ク平穩ナル由彼地ヨ
 リ届ケニ相成タリ捕虜ノ人名左ノ如シ

一揆隊長

元會藩

渡邊負藏

同脱走行方不知

元柴藩

月岡帶刀

元會藩

近藤慶次

元會藩

村上藤次

元會藩

吉田藤太

内野村里正

吉田傳三郎

加茂新田庄屋

市左工門

蒲原郡小池村

九郎次

元庄内藩

仙臺源次郎

元米澤藩

竹内 某

吉川大介

○北越友人ヨリ來翰中ニ今般土寇蜂起ノ音趣ハ左ノ
 四ヶ條歎願ヲ名トシテ此隙ニ乘シ茲惡不逞ノ徒諸村
 ノ頑民ヲ煽動シ暴舉ニ及ヒシカ當港出張ノ鎮臺兵ニ
 小隊繰出シニ相成リ昨今漸々鎮定致セシト云々
 第一大河津堀割ノ爲諸村落人夫課役ニ苦之候間右普
 請御廢止ヲ乞フ 第二漸々佛道御廢止神道御取興ノ様
 相見エ歎舖是舊ニ依テ變更ナキヲ乞フ 第三新瀉御開
 港ニ付北越内ノ物價平常ナラス此港貿易御廢止ヲ乞
 第四租稅御取立ノ法方舊ニ依テ變革ナキヲ乞フ

撰者謹白我州國タル都會或ハ冷海ノ地ト異ニシテ珍奇異聞極テ鮮
 シ故諸々ノ新聞誌等ニ就テ其萃ヲ按キ綴ニ編テ成ス固ヨリ我州ノ事
 ヲ以テ他邦ノ文明ヲ資クルニ非ス他ヲ假リテ我州ノ文化ヲ資クルノミ四方ノ
 君子余ノ微衷ヲ憫ミ事タリ此ニ載ベキ事ハ書記シ賣弘所へ御投示シ
 玉ヘ必ス木瓜ノ報ヲナスヘシ但シ住所姓名委細ニ附記シ玉ヘ姓名ヲキモノハ確實
 ノコトヲモ取テ採入セス子虚ノ説アラントテ恐レテ也

奈良油苗木町

新聞報社 本局

金澤昇平

同東北ノ町

高橋平藏

賣弘所

書林

大塚齋橋通東上町

鹿田静七

